

まゆだま

2012. 6. 25発行
No. 356

連絡先：高田（八王子一小）
東京歴教協 八王子支部

～ 子どもの日に全基停止から1ヶ月と少し。もう大飯原発の再稼働が決定された6月中旬。震災からの1年3ヶ月はなんだったのか？それは、沖縄に照らしてみると、あの返還からの40年はなんだったのか？という問いにつながるような気がします。6月は、”沖縄を考える1ヵ月”なのです。～

6月例会報告：「沖縄返還40年」から考える沖縄、そして福島

教材
資料
方法



興味
関心
実態



いつも時事問題をタイムリーな時期に教材化する西村さん。6月例会では今年の5月の実践です。5月15日の沖縄返還の日が、ちょうど返還40年にあたることから、社会科の現代史・憲法学習と関連付けて実践しています。

◎今回の学習の流れ◎

1. 「福島の過去・現状・未来」
”原発標語を作った少年の今の心境を考える”（浪江町の方をゲストに）
2. 「日米安保条約から沖縄を考える」
* 米軍基地の問題、沖縄返還の日について
* 沖縄宮森小学校米軍機墜落事故を知る（NHK特番映像・演劇映像から）
* 普天間第二小学校6年生へ手紙を書こう
3. 「放射能の学習」へつなげる **未来の主権者となるために・・・**

* 展開1「沖縄ってどんなイメージ？」

シーサー・ゴーヤチャンプルー・きれいな海・ひめゆり部隊・美ら海水族館・ちんすこう・さとうきび・首里城・米軍基地・・・というイメージ。

* 展開2「沖縄返還40年の授業や新聞記事を通して知ったこと

< 児童の感想 >

沖縄は海がきれいで、独特の文化があって、平和な場所みたいにテレビで放送することが多いので、行ってみたいなと思っていました。沖縄には米軍基地が多くあることで何か問題になっているのは知っていましたが、それは、日本が戦争をしない国になっているので、アメリカが他の国から攻撃されないように守ってくれているのだと思い、沖縄に米軍基地があることは仕方のないことだと思っていました。そして沖縄は前はアメリカの土地だったのだから、沖縄に米軍基地が多いのは当然だと思っていました。しかし、この勉強をして、沖縄に米軍基地が多いのではなく、日本にある米軍基地のほとんどが沖縄にあることを知りました。特に住宅街に基地があるということで、いつも飛行機の騒音やつらく事故の危険にさらされていることを知りました。米軍基地は、戦争をしない日本にとっては必要なことだろうけど、沖縄に集中しているのはありすぎだと思うから、少し減らした方がいいと思います。

* 展開3「沖縄は平和な島か？」

演劇「フクギの雫」やNHK特集の映像を見ながら、今まで知らなかった沖縄について理解を深める→イメージの変容（子ども達が今まで持っていた思考へのゆさぶり）

↓ ↓ ↓
「沖縄戦の歴史」
「日米安保条約」
「日米地位協定」
「治外法権とは」
「基本的人権の尊重」

という言葉にもふれてその中身をおよそ理解していく。



* 展開4「沖縄問題と日本国憲法」

沖縄の問題を理解した上で、沖縄で日本国憲法で保障されている国民生活が成り立っているかを考え合う＝「沖縄は平和な島ではない」という共通認識へ。

* 展開5「普天間第二小学校六年生への手紙」

自分達の思いをどう伝えるか？同じ年齢の沖縄の子ども達へ手紙を書く。

* 展開6「核と人間の共生」～放射能の学習～

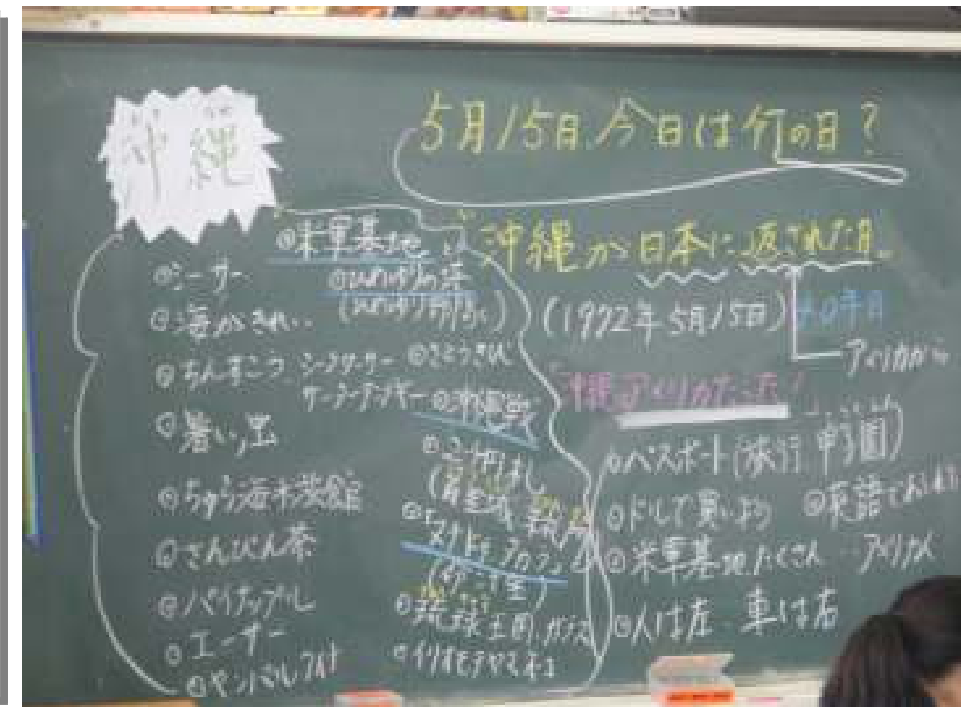
沖縄と福島の学習を通して、この二つはつながっていることに気付く

【参加者の感想より】

- 久しぶりに参加して、熱気のあるレポートに意見、感想が盛り上がり、例会を盛り上げるのもやはり”実のあるレポート”だということをおぼろげに感じさせてもらった。今、日本中で民教研をはじめ、各研究会は、なかなか参加するのも嬉しい状況なのはわかります。しかし、少人数であっても、こうして続けられることは貴重なことです。そういう自分自身はなかなか参加できませんが、今後も可能な限り出席する努力は致します。今日は、御苦労様でした。
- いつも凄い実践をありがとうございます。最近思うことは、この二つの問題をつなげてタイムリーな感想を書く、このことはよいのですが、沖縄だけでも大事な学習、福島だけでも大事な学習です。公立小学校では、使った資料や授業の展開を1時間単位で1つの単元のどの大事な部分なのかを要求されます。今後、啓明の若い先生方がこうした授業を実践できるようになるためにも、二つをつなぐ授業計画案が必要だと思いました。ただ、子どもひとり一人の感想はとても良く書いていていつも感嘆しています。そこに授業者の熱い思いを感じました。今日も、素晴らしい内容の報告をありがとうございました。
- 今回、この授業で西村先生の教えた生徒が、高校（特に卒業前くらい）の時に、「ふりかえり」の授業をしたらどうなるのか？ぜひ啓明の中高の先生方にやってもらいたいものです。私は、高校生の現代社会の授業の時に、「小学生はこんな意見を持っているぞ、君たちはどう？」という問いかけをする授業を試してみたいと考えてみます。（その際には、西村先生に事前に御連絡を致しますので、ぜひ我が高校の授業の参観にいらして下さい。）
- 授業で、教育で、何を教えたいかという情熱を感じる実践に圧倒されました。きびしい現実の中、自分のやりたいことを貫き、子どもの反応や親の反応を楽しみながら実践をしていることに、感激しました。これはなかなか簡単に出来る実践とは言えませんが、こうした学び方もあると気付かされて、とてもためになりました。
- 「沖縄返還40年」と「福島原発」を結び付けて子ども達に教材として提示するのはさすが西村さんだと思います。どちらも「中央」のために「地方」が犠牲になっているのでは・・・と考えていて、その内容を子ども達が真摯に受け止め、考えています。原発も再稼働する方向で、地元からの要請があったという大飯町のことがニュースになっています。これはなかなか難しい問題です。こういうことも、今の子ども達にはなかなか正面切って立ち向かわせられませんが、西村さんはいつもタイムリーに問題を提起し、考え、共感し合おうとする実践をするので感心しております。今後もぜひこのような教育実践を続けて下さい。本日は、参加者が学べる報告をありがとうございました。

- 「沖縄と福島」がこのような形でつながるとは気が付きませんでした。しかしそれは、中央のための地方という日本社会の抱える構造的な差別の問題を、授業の教材として作り上げる教師の思いが根底にあると思います。教科書に書いてあることを教えるだけでなく、こうして、教科書に書いてないことも学び合えるのが素晴らしいと思いました。
- 2011年の福島の問題は、1995年の沖縄の問題、1972年の沖縄返還の問題、1945年4月～6月の沖縄戦の問題へとさかのぼってつながっていくように思います。共通するのは”捨て石の思考”。結局、中央の守りぬきたいもののために、地方に負担を強いる。これが日本社会の在り方を表しているし、国民統制の教育の成果なのかと思う。今なんとかしないと、未来は恐ろしい世の中になる気がする。

この授業に参加した児童の親類から、後日沖縄の名産を贈らされた。全員分贈られた。子ども達も嬉しかった。俄然やる気になっていく、と再確認しました。



— 7月例会のご案内 —

【2012年 7月例会】

「発見！昭島市から古墳が？」～地域教材を活かす歴史学習～

報告者：越後貫 あぐりさん（八王子支部会員・啓明学園初等学校）
 日時：2012年7月7日（土）14：00～16：30頃
 場所：浅川市民センター（JR高尾駅北口徒歩8分）

※例会の詳細につきましては、事務局の高田さん（2012年度からの勤務先＝八王子第一小学校：042-642-0851）までお願い致します。